

令和 6 年 6 月 26 日現在

機関番号：33912

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K02847

研究課題名（和文）小学校教員の読書指導力向上のための支援プログラム開発

研究課題名（英文）Development of a program to improve elementary school teachers' reading instructional skills

研究代表者

滝浪 常雄 (Takinami, Tsuneo)

名古屋学院大学・スポーツ健康学部・教授

研究者番号：40516986

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,100,000円

研究成果の概要（和文）：読書指導は、小学校教員にとって必須の指導力の一つである。しかし、現状は自信がなかったり、不安を感じていたりすることがわかった。そこで、小学校教員のための読書指導力を向上させるためのプログラムを開発することとなった。研究方法として、読書指導に熟達している教員への取材と、読書活動優秀実践校とその学校がある地域の公共図書館への取材を主として行った。その結果、読書指導への基本的な姿勢や考え方を明らかにすることができた。また、学校や図書館での取材によって子どもたちが意欲を持って取り組み始めるであろう読書指導の方法も見出すことができた。途中、コロナ感染があったが、研究プログラムを作成することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

2000年代以降、我が国の読書教育は国策の一つである。教育方針は学習指導要領において読書の重要性を掲げ、国語編では「読書指導の充実」が述べられている。一方で指導力としての不安感を抱いている教員は多い。特に小学校の現場では、どの教員も読書指導の最前線に立たされているだけに、読書指導力の向上は求められていると考える。したがって、読書指導について、より向上できる研修プログラムの開発は急務であり、本研究で研修プログラムの作成ができたことは、今後小学校教員の研修や大学における養成過程において貢献できると考える。まだ検証までがコロナ感染によりできなかったため、今後小学校での検証をして補完していきたい。

研究成果の概要（英文）：Reading instruction is one of the essential teaching skills for primary school teachers. However, it was found that they currently have low confidence or feel insecure in this field. Therefore, it has been decided to develop a program to improve reading instruction skills for primary school teachers. The main methods of the research were interviews with teachers who are proficient in reading instruction and interviews with schools where reading activities are practiced with excellence and with the public libraries in the areas where the schools are located. As a result, we were able to identify basic attitudes and ideas towards reading instruction. The interviews at the schools and libraries also enabled us to identify methods of reading instruction that would motivate children. Although there was an infection with coronavirus during the course of the study, the research program was successfully developed.

研究分野：教育学

キーワード：読書指導 小学校教員 読書教育 教師教育

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

我が国の読書問題は校種が上がるにつれ、1ヶ月の冊数が減り、不読者が多いということである。国策として読書活動の推進がなされるものの、依然として飛躍的な向上は見られていない。2005年には「文字・活字文化振興法」が成立し、大学カリキュラムに「読書科」または「図書館科」の設置が提案された。しかし、依然として教員養成課程には「読書科」は設置されていない。司書教諭の学校必置も制度化されているが、2013年の国立青少年教育振興調査では、司書教諭の有資格者は、学校に1人から3人いるのが7割程度という現状である。養成制度の改革も急務ではある。平成23年度版学習指導要領・国語編においては、主体的な読み手を育てるために「読書活動の充実」が掲げられ、読書力がPISA型学力の育成に関与していることが認められると、読書活動推進の気運は高まり、全国的に展開されている。平成27年版学習指導要領では「読書指導の改善・充実」が唱えられ、子供主体から「読書指導」という教員主体に課された教員の責務は大きいといえる。けれども、依然として教員の読書指導は専ら on the job の学びに任されているのが現状である。

また、国語科学習においては、単元を貫く言語活動の学習が広まり、国語力向上の成果は上がったが、表現活動に特化される傾向にあった。並行読書も位置づけられ、子どもの読書意識は高められたと思う。しかし、恒久的に「主体的な読み手」として育つというところまでには至っていない。そこには、学習機能、情報機能としての取り組みしかなく、読書機能としての取り組みである読書指導力が欠けていると思われる。

読書活動推進は国策の一つである。国民の読書習慣の形成、読書力の向上は、まさに教員の読書指導にかかっているといえよう。

2. 研究の目的

本研究の目的は、読書指導力のための要素・要件を明らかにし、小学校教員の読書指導力に焦点を当てた支援プログラムを開発することである。

3. 研究の方法

本研究の目的は、これまでの読書指導科のカリキュラム研究で得た知見を生かしながら、小中学校現場の教員や学校司書など読書指導者のインタビュー調査をもとにライフストーリー分析を行い、今回は小学校教員を対象とした読書指導力を質的に向上させるための、支援プログラムを開発することである。中学校教員は本研究を踏まえて次に行う予定である。

国民の読書調査だけでなく、子ども側と教員側の読書調査も行われ、その課題をもとに行政側は様々な読書活動を進めてきている。しかし、その成果は学校間によって格差があるのが現状である。それは学校における教員の読書指導力の格差にもつながっており、まさに読書指導の実質化を図る取り組みが鍵となる。これにはインタビュー調査によって、特に熟達した教員のライフストーリー分析によって、読書指導観と実践に大きなヒントが得られると考えている。また未熟な教員の場合は、同分析から、自分の何が力量不足なのかを明らかにすることができ、自分自身で知識技能を補完することができる。

この両者のライフストーリー分析で得た知見から、教員の読書指導支援の在り方が、より実質的に見えてくると確信している。

本研究は以下の4点の研究課題について3年間で追求していく。

【課題1】熟達した読書指導者の読書指導観及び読書指導実践に関する実態の調査

【課題2】読書指導向上のための要素・要件の明確化

【課題3】小学校教員向けの指導支援プログラムのモデル開発と試行実践

【課題4】指導支援プログラムの有効性の検証と成果の啓蒙

4. 研究成果

【課題1】熟達した読書指導者の読書指導観及び読書指導実践に関する実態の調査

9名の教員のインタビューの分析結果は以下の通りである。

対象者	読書指導観	読書指導実践	今後
H教諭(瀬戸市) 2021.2.1	読書ができれば、友達はいらない。 本があれば、本によってつながる。考える。決して孤独ではない。	昇降口に平置きで貸し出し 図書委員会 読書につなげる授業 図書紹介(昼の校内放送) 辞典の活用	集団読書 図書の旅 読書記録

T 教諭(瀬戸市) 2021.2.26	読書の機会を増やす 読書指導の温度差 学級文庫の充実 漫画	平置き実践 同僚性(長谷川先生)	ネットにつながる方法 電子書籍より 紙の本
F 教諭(瀬戸市) 2021.2.24	本を好きになる 家庭を巻き込む	家庭読書 コメント 読書環境の必要性 地域の図書館	想像力の育成 若い先生たち との取組 (ICT 活用を 含めて)
M 教頭(瀬戸市) 2021.2.12	イメージ力の欠如 読書で経験 手間をかける必要性	授業に役立つ読書と余暇を楽しむ読書 図書館の活用 ICT 活用への疑義	(外国人子女 への指導か ら)漢字の読 解力
A 教諭(瀬戸市) 2021.2.1	読書指導 = 物語 読書日記	読み聞かせボランティア 夏休みの購入 学級 授業で図書室の本を活用	静かに本を読 ませてあげた い
Y 校長(名古屋市)	読書感想文賛成 読んだことを自分の言葉で表現は大切。本がフィルターとなって子供の心の経験が広がっていく。教員の読書意識が低い。子供の心に届くのは生の声。読み聞かせ、読書ノートで児童と交流。教員の読書指導は大切。本は言葉の宝庫	名古屋市学校図書館研究会 夏の推薦図書、読書郵便、本の帯コンクール、読書実態調査 個人的には読み聞かせ、読書ノートで交流。	
Y 学校司書(那覇市)	数よりも熟読 読み切る 教員の読書指導は絶大。 コミックあり 情報がコミックでも本でも。	図書委員会の企画運営(管理は私、運営は児童) 返却も主体的に。図書の時間は先生もリラックス。特支への配慮。	埼玉県飯能高校湯川ヤスヒロ先生の実践に共鳴。
S 学校司書(由布市)	図書館は親切でできている。 市民意識、地域で暮らす人が幸せになってほしい。	見つからない本 ホワイトボードで、みんなで探し出す。 利用案内。読書の時間。質問シート。 「作ろうコーナー」(工作活動)の設置。 二人用の読書部屋(性教育やLGBTの本)読書日記。地域で、市教研に司書も参加。 図書委員会活動。	

		ビブリオバトル。図書館クイズ。学級文庫。	
I教諭(福岡市)	読書は日常的な活動、読める環境が必要。自分で読むということができるように働きかけるのが大人、教師	調べ学習「すがたをかえる大豆」ブックトーク「どうぶつ園のじゅうい」並行読書	朝読書の復活。子供たちが読みたくなる本。特支の読書指導

研究中盤にコロナ感染が拡大し、ほとんど学校訪問ができず、インタビューイーが少なかったが、その中でも比較的親密な関係が結べた9名のインタビュー調査の分析結果を表にしてみた。

個人によって考え方は千差万別という他はないが、読書指導観について、熱心に語る姿があり、熟達した読書指導者には、確固たる信念と言えるほどの基本的な考え方を持っており、その真摯な姿勢は、語り口にも表れている。

実践についても、自分で、または仲間を引き込んで独創的な取組が見られていた。H教諭はT教諭と同じ学校に勤務していた折の実践を語ってくれたが、学校中を巻き込んだ取組は、学校全体の読書指導意識の底上げを図っており、重要な示唆を与えてくれた。また、F教諭の家庭読書の取組は、学校全体としての取組としながらも、F教諭は、家庭読書ノートにコメントを加えて、家庭とのコミュニケーションを取りながら、読書を推進していった。その姿勢は、読書指導は決して子ども向けだけでなく、家庭生活に広げることで、子どもの読書生活を成立させるよすがとなることを示唆している。

また、2名の学校司書にもインタビューをしているが、学校司書の存在は学校の読書指導において、重要な位置を占めていることが分かる例であった。2名ともその学校の図書館専属であり、だれよりも学校の読書事情を熟知していることは、図書館経営をする上で重要である。また、図書委員会を運営にも携わり、子どもたちをコントロールして、読書活動を盛り上げている。この学校司書の存在は読書指導において、まさに教員のサポートをする上で、重要な位置を占めている。

I教諭は熟達した読書指導者というより、熟達しそうな読書指導者としての萌芽を感じてのインタビューである。校長より、かなり前向きに図書館教育にのめり込んでいる教員として紹介された。実践そのものよりも、読書指導への思いや考え方が、ひとつのきっかけの例として、好例と考えた。「読書は日常的な活動であり、読める環境が必要」であり、「自分で読む」という自立的な読者こそが、読書指導の目指すところであることが肌身で感じているところに注目した。こういう基本的な指導観を養っていくにはどうしたらよいのか、新しい視点を感じたところであった。また、I教諭は、特別支援学級の子たちへの読書指導に興味があるということで、これも大切な課題であると痛感させられた。

以上が、熟達した読書指導者の読書指導観と実践であるが、総じて、自分の読書への関心、読書指導への思いや考えを、十分語れるという事実から、読書指導には必要な中心軸としての自分の考えをしっかりと持つことが重要であると考えられた。

## 【課題2】読書指導力向上のための要素・要件の明確化

教員のインタビューから 教員にとって、読書指導力を向上させる要素・要件

熟達した読書指導者及び、読書活動優秀実践校訪問で得た教員(管理職も含む)及び学校司書への非構造化インタビューから得た知見からの要素・要件は以下のとおりである

- ・明確な指導観(読書及び読書指導に対する考えをしっかりと持っている)を持っていること。
- ・読み聞かせ、ブックトークなどの技術を持っている。
- ・読書指導実践を、学校を巻き込んでできる。
- ・指導法を常に模索している。
- ・児童を主体的に活動させる指導力がある。 図書委員会の企画運営。
- ・読書週間などのイベントの企画運営
- ・他教科他領域等の横断的学習やイベントの企画運営(給食や音楽などとのコラボ)
- ・地域の図書館との連携ができる。 図書館見学、図書館で資料活用法、移動図書館
- ・図書情報を常にチェック
- ・メディアミックスを常にチェック
- ・児童との人間関係づくりに長けている。学校司書はカウンター業務で児童と交流。
- ・家庭を巻き込んだ読書指導 読書ノートにコメント

各学校の実践からの要素・要件

研究期間中に、読書活動優秀実践校30校を訪問。その中で参考にしたいと考えた実践は以下

の通りである。

- ・読書思い出帳（読書通帳の記帳機）（前沢小）
- ・学校図書館のキャラクター「ポンタくん」（前沢小）
- ・図書室と昇降口の動線（釧路小、前沢小）
- ・地域のボランティアの存在（全校） 読み聞かせ、本の整頓、修理等
- ・地域図書館との連携

司書によるブックトーク、読み聞かせ（三郷小）移動図書館（田原小、塩浜小）司書との交流（狭間小、三瀧小）

- ・音楽とのコラボ コンサート（三瀧小）
- ・校長のリーダーシップ（名古屋市、砂山小）
- ・学校司書の育成 強力な助っ人（坂田小、狭間小、砂山小）

### 【課題3】 読書指導支援プログラム

回	研修内容
1	【読書の重要性についての語り合い】 ・読書することの意味 ・小学生への読書指導する意味についての語り合い ・読書によって得られる効用
2	【我が国の子供の読書教育事情の理解】 子供の読書活動の推進に関する基本計画と学習指導要領の理解
3	【読み聞かせ・ブックトークのワークショップ】 ・地域の図書館の司書による指導 ・読み聞かせサークルによる模範演技
4	【ビブリオバトルのワークショップ】 ・教員同士で。 ・地域の図書館の司書の協力
5	【読書環境・・・展示方法、配架方法、図書室のレイアウト】 ・地域の図書館の司書の協力 ・移動図書館車の巡回指導
6	【ICT活用】電子書籍の普及
7	【障害者の読書活動】デージー、オーディオブック等の活用 ・特支学級への読書指導、読書支援

### 【課題4】 指導支援プログラムの有効性の検証と成果の啓蒙

課題3における指導支援プログラムの検証は、十分できなかった。これはコロナ感染によって研究が中断したことで、遅滞が生じ、プログラム作成だけで終えたことにある。

しかし、項目4の「ビブリオバトルのワークショップ」については、2023年秋に、瀬戸市の小学校において校内研修として実践することができた。このとき、多くの教員から高い評価を得、是非子どもたちへの読書指導の一つとして生かしていきたいという感想をいただいた。そのため、このプログラムの取り組みについては、検証ができたといえる。2024年秋も当校で読書指導についての研修の機会があり、他の項目について実践検証をしていきたい。

また、今後瀬戸市の小学校全体の教員向け研修プログラムとしても取り上げていただけるように、国語科部会の顧問校長に依頼しているところである。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 滝浪常雄	4. 巻 8
2. 論文標題 小学校と公立図書館との連携・協力における今後の方向性ー子供の読書活動優秀実践校（小学校）の取組よりー	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 名古屋学院大学教職センター年報	6. 最初と最後の頁 15-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 滝浪常雄	4. 巻 35
2. 論文標題 小学校読書活動の取組の傾向と課題ー子供の読書活動優秀実践校（小学校）の取組よりー	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 名古屋学院大学論集 言語・文化篇	6. 最初と最後の頁 53 - 62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 滝浪常雄	4. 巻 58
2. 論文標題 小中学校教員の読書指導に対する基本的な考え方ーA市における図書主任対象のアンケート調査からー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 名古屋学院大学論集 人文・自然科学篇	6. 最初と最後の頁 1 - 9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 滝浪常雄	4. 巻 32（2）
2. 論文標題 小学校教員の読書指導力養成に関する研究ー熟達した読書指導者から得られた知見ー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 名古屋学院大学論集（言語・文化篇）	6. 最初と最後の頁 109 - 116
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15012/00001329	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 滝浪常雄
2. 発表標題 小学校教員の読書指導力養成に関する研究－熟達した読書指導者から得られた知見－
3. 学会等名 第139回全国大学国語教育学会秋季大会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------